

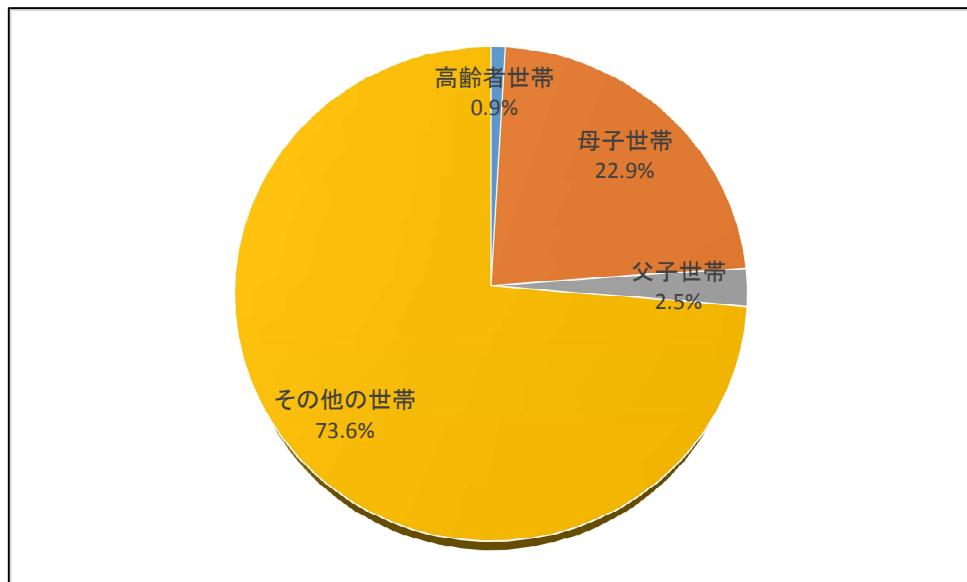
国勢調査との乖離にかかる要因分析について

第2回研究会において提示した資料4において、「試算② H22 国勢調査ベース世帯数による補正を行った試算」と「平成 22 年国勢調査(一般世帯)」の結果を比較したところ、世帯類型によって乖離が見られた。

具体的には、世帯構造が「ひとり親と未婚の子のみの世帯」の世帯数は試算②で 4,557 千世帯、国勢調査では 4,523 千世帯であったのに対して、世帯類型が「母子世帯」の世帯数は試算②で 1,028 千世帯、国勢調査では 756 千世帯であった。そこで、この乖離にかかる要因を分析した。

世帯構造「ひとり親と未婚の子のみの世帯」における世帯類型の内訳をみると、「母子世帯」は 22.9% であり、一方で「その他の世帯」は 73.6% であった。すなわち世帯構造「ひとり親と未婚の子のみの世帯」は、世帯類型「母子世帯」「父子世帯」以外の世帯類型が多数含まれている。

世帯構造「ひとり親と未婚の子のみの世帯」における世帯類型の内訳



「試算② H22 国勢調査ベース世帯数による補正を行った試算」は世帯主の年齢階級および世帯構造別に拡大乗数を算出している。

世帯構造の「ひとり親と未婚の子のみの世帯」は、現行方式では国勢調査との乖離が大きいことから、試算②では、国勢調査にあわせるため、相対的に大きな拡大乗数を適用している。一方、世帯類型の「母子世帯」は、現行方式と国勢調査とでそれほど乖離は大きくないが、「ひとり親と未婚の子のみの世帯」と同じ拡大乗数が適用されることから、試算②においては、「母子世帯」が過大推計となっているものと考えられる。

推計数(単位:千世帯)			
	総数	世帯構造	世帯類型
		ひとり親と未婚の子 のみの世帯	母子世帯
現 行	48 638	3 180	708
試算②	51 448	4 557	1 028
国勢調査	51 842	4 523	756

構成割合(単位:%)			
	総数	世帯構造	世帯類型
		ひとり親と未婚の子 のみの世帯	母子世帯
現 行	100.0	6.5	1.5
試算②	100.0	8.9	2.0
国勢調査	100.0	8.7	1.5